

スマホ・インターネットの 非行・有害情報から 子どもを守りましょう

町では、令和2年度9月、町内の小学6年生(207人)・中学3年生(232人)とその保護者に「邑楽町携帯電話・スマートフォン実態調査」(以下、調査)を実施しました。その結果、小学6年生で45.9%、中学3年生で84.6%が携帯電話・スマートフォン(以下、スマホ)を所持していることが分かりました。前回調査(平成29年度)と比べて小学6年生で+16.7ポイント、中学3年生で+19.7ポイントと共に大きく増加しています。これは5人グループの中で所持している人がおよそ1人ずつ増えたことになります。

安易に「大丈夫だろう」「危険だ、危ない」と考える前に

スマホやゲーム機などインターネットに接続できる機器が普及し、たくさん子ども達が、それらを手にする時代です。それに伴い、生活習慣の乱れやネットいじめなどの問題、さらには、子どもが犯罪の被害者や加害者になってし

まうことも起きています。このようなトラブルは決して特別なことではなく、どの子どもにも起こり得ることです。

安易に「大丈夫だろう」と考える前に、インターネットの特性や危険性を正しく知り、子どもたちがどのような環境でどのような機能を使っているかを把握することが大切です。

保護者がしないで誰が？

実際に子どもがインターネットを利用する場面は家庭が最も多いと考えられます。そのため、保護者が適切に見守り、ルールをつくって守らせることは、被害から子どもを守るために必要なことであり、保護者の責務でもあります。

…中面へ続く

邑楽町教育委員会 教育長 藤江利久
邑楽町小・中学校長会 会長 増尾信行
邑楽町小・中学校PTA連合会 会長 坂田大輔
邑楽町青少年育成推進員連絡協議会 会長 小島正宏
邑楽町子ども会育成会連絡協議会 会長 佐藤香織



邑楽町にはコレがある！
みんなで守ろう5つの取り組み

ケータイ、スマホの『か・き・く・け・こ』

か 必ず守ろう、家族のきまり。

- ◎決めたルールをいつも見えるようにしておきましょう。
- ◎子どもがルールを守っているか、保護者が子どもの利用実態を把握することが大切です。

き 既読スルーを気にしない。強い気持ちでいじめ防止。

- ◎無料通話アプリやメールなどで返信がなかった場合も、互いに理解し合しましょう。
- ◎ケータイ・スマホを持っている子どもも友達です。理解し合い、仲良くしましょう。

く 9時、10時。利用時刻は小学生夜9時、中学生夜10時まで。

- ◎利用が多い夜7～10時は親子の会話、コミュニケーションをとることができる時間です。
- ◎利用しないときは、置く場所を決めたり、保護者が預かったりするルールを決めましょう。

け ケータイ、スマホ、ゲーム機は学校に持ち込まない！

- ◎原則として学校に持って行ってはいけません。何か特別な理由で、ケータイ・スマホなどを持たせる場合は、学校長へ届出が必要です。

こ 子どもを守ろう！フィルタリング

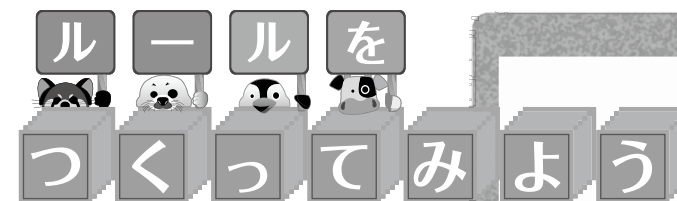
- ◎見るつもりがなくても、有害・不適切な情報に突然出会ってしまうこともあります。フィルタリングサービスで利用環境を整えましょう。

ケータイ・スマホに関わる健全育成は保護者の責任と見守りが鍵です！

「ケータイ・スマホのかきくけこ」 利用時間は守れている？

小学6年生	54.4%
小学6年生の保護者	71.9%
中学3年生	42.7%
中学3年生の保護者	47.8%

調査結果から子どもと保護者の認識のズレが小学6年生で17ポイント。「保護者が考えている以上に利用時間が守られていない」ことが分かりました。



トラブルを防ぐには、子どもと保護者が一緒に使う方や危険性を理解し、フィルタリングサービスやセキュリティ設定などの対策をはじめ、安全に使用するためのルールをしっかりとつくるのが大切です。

右は、親子で交わすスマホの利用ルールの一例です。ぜひ一度話し合いの機会を設けてほしいです。

一番身近なお手本 それは私たち“大人”です

話し合いをするには保護者側の準備が必要です。なぜそのルールを守る必要があるのか、ルールを守るには何をすればいいのかが分からないと、ルールの納得感が薄れてしまうし、実効性が乏しくなってしまいます。

また、保護者がお手本にならないとルールの説得力がなくなります。保護者が深夜までスマホをいじっているようでは、子どもに夜10時以降のスマホの利用を禁止するルールをさせるのは難しいのです。



生活習慣チェック

朝は、きちんと起きられている ☐ とも ☐ 保護者
学校の宿題や課題にしっかり取り組んでいる ☐ とも ☐ 保護者
ゲームやネットは約束の時間内に使えている ☐ とも ☐ 保護者

ルール決め

①インターネットを使っていいのは何時間まで？
☐ 0分 ☐ 30分 ☐ 1時間 ☐ 1時間30分 ☐ 2時間 ☐ 2時間以上

②インターネットを使っていいのは何時まで？
☐ 午後6時 ☐ 午後7時 ☐ 午後8時 ☐ 午後9時 ☐ 午後10時 ☐ 午後11時

③インターネットに公開してはいけない情報は何だろう？ (3つ書いてみよう)
1 2 3

④保護者に相談するときって、どんなときだろう？ (3つ書いてみよう)
1 2 3

ちょっと考えて

①せっかく決めたルールでも、守れないときがあるかもしれない。そんなときって、どんなとき？

・
・
・

②もし、ルールを守れないことが続いたら、どうする？

成長に合わせてステップアップ

規制ではなく、学びを得る

子どもの自主性を尊重

◀「おぜのかみさま」はインターネットを安全安心に使うための心構えをまとめた群馬県で作成した標語です。お問い合わせは、邑楽町青少年育成推進員(邑楽町教育委員会生涯学習課)へ ☎47-5043。

●相談機関・関連サイト

■政府広報オンライン

ネットの危険から子どもを守るために保護者ができる3つのポイントを紹介。



■警察庁

インターネット安全・安心相談
インターネット上のトラブルの解決を支援するサイト。



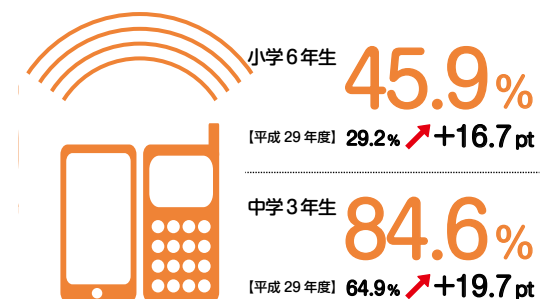
■安心ネットづくり促進協議会

インターネットを使いこなす子どもたちとそれを温かく見守る大人たちの育成を目指し、それらを安全に利用するために必要な情報提供がされています。



少し見ていきましょう

ネット📱時代に潜む危険



子どものケータイ・スマホの所持率は？

所持率が大きく増加

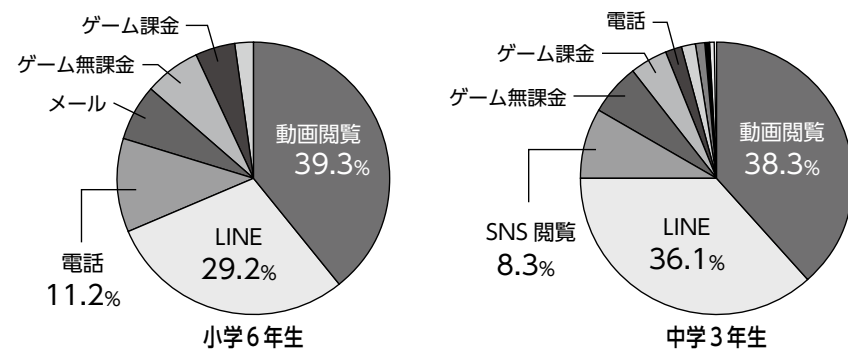
改めてスマホの所持率を確認しましょう。町教育委員会が実施した調査によると、小学6年生で45.9%、中学3年生で84.6%がスマホを所持しています。前回調査（平成29年度）と比べて小学6年生で+16.7ポイント、中学3年生で+19.7ポイントと大きく増加しています。小学校高学年になって、習い事などが始まるとともに保護者



子どもと大人の認識にズレ!?

保護者の知らない機能を活用している子どもにとっての「普通」は、保護者の「普通」とは別物と言えそうです。

【表1】携帯・スマホの使い道として利用経験があるもの



との連絡用にスマホを持ち始めることが多いようです。

子どもたちはスマホで一体何をしているのか？

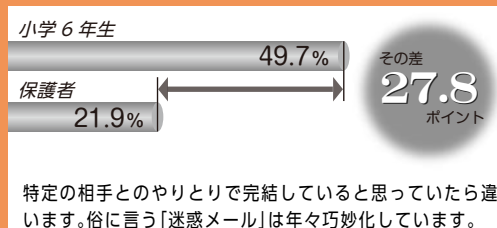
手のひらに隠れてしまう小さなスマホで、子どもたちは一体何をしているのでしょうか。冒頭の調査によると、小学6年生での使い道は、上位から「動画閲覧」（39.3%）、「LINE」（29.2%）、「電話」

（11.2%）。中学3年生では上位から「動画閲覧」（38.3%）、「LINE」（36.1%）、「SNS開設・投稿」（8.3%）という結果でした【表1参照】。

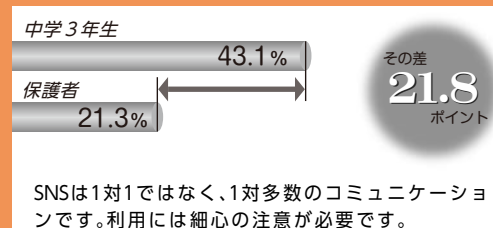
最初は「子どもとの連絡手段として」「子どもの居場所を把握するため」「子どもが希望したから」といった理由で持たせたはずのスマホですが、調査の結果では「動画閲覧」がどちらも第1位になっていて、目的と実態には少々ギャッ

利用経験がある使い道のうち、子どもと保護者の認識のズレが大きいもの

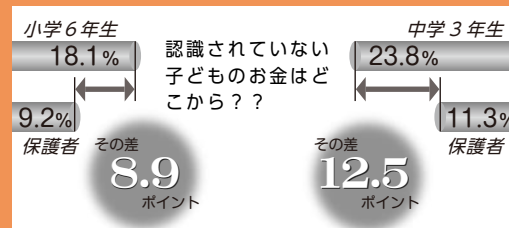
メール



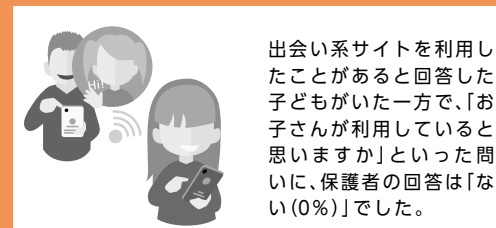
SNS開設・投稿



ゲーム課金



出会い系



トラブル発生 事例



3つのポイント ルールづくりを推奨

互いが納得できる約束を



邑楽町教育委員会 教育長 藤江 利久

スマホ歴は10年。主にLINEを利用。「カメラで撮影した画像を共有したり、趣味の野球チームのメンバーと連絡を取り合ったりするのにスマホは欠かせない」と話す。

1 ルールには具体性を

家庭内の生活のルールはさまざまです。そこで曖昧な言葉は捉え方が異なりやすくなります。「夜遅く」「使い過ぎ」ではなく「21時まで」「食事中はスマホを使わない」としましょう。

2 他人に迷惑をかけないルール

「歩きスマホをしない」、「他人の悪口や個人情報にネットに書き込まない」など、ということが他人に迷惑がかかるのか、マナーと一緒に説明することで、理解を促しましょう。

3 守れなかったときのルール

決めたルールが守れなかったときのルールもつくりましょう。「守れなかったらスマホを親に返す」「守れなかったら〇〇する」など、覚悟を持って使うことを意識させるルールを。

プがあるようです。動画閲覧は、友達からの影響などもあり、自分だけでコントロールできるとは限りません。子どもにスマホを持たせるということは、実際の使われ方が目的と異なるという点を念頭に置いた上でルールづくりをする必要があるようです。

便利さの裏に落とし穴も

スマホが浸透し、便利になってコミュニケーションの密度や難易度が上がる分、その先には友人とのけんかやいじめ、見知らぬ人との出会い、犯罪への巻き込まれるといった思わぬ落とし穴も待ち構えています。ある程度経験を積ん

だ大人なら、うまく対応できることでも、経験の乏しい子どもは、濃密なコミュニケーションをさばききれず、トラブルに発展してしまうことがあります。

心配だからと 取り上げるのではなく

『親が知らない子どものスマホ』（発行／日経BP）の著者で、娘2人の母親でもあるスマホ安全アドバイザーの鈴木朋子さんは、「スマホは世界とつながり、さまざまなことが学べる便利な道具。うまく共存できるよう教えていきたいですね」と話しています。

スマホを所持させるならばそ

れは、子どもたちとの会話を増やし、子どもたちが何に興味を持っているのかを知るチャンスと考えてみてください。そして、あらかじめ子どもと保護者でスマホ利用のルールを決めておくことが大切です。ポイントは、子どもが保護者に気軽に相談できる環境をつくること、インターネットの利用についてどのようなリスクがあるのかを継続的に会話することです。

…裏面で、ルールづくりにトライ！